



平成 30 年 11 月 13 日

各 位

会 社 名 大黒屋ホールディングス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 小川 浩平  
 (コード番号 6993 東証第二部)  
 問 合 せ 先 財務経理部長 大村 正文  
 (TEL. 03-6451-4300)

### 平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社では、平成 30 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想値と本日公表の実績値において差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

これに加え、最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値と連結実績値との差異 （平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,437	百万円 127	百万円 △25	百万円 △255	円 銭 △2.00
今回実績値 (B)	9,939	27	△269	△466	△4.27
増減額 (B-A)	△497	△99	△244	△211	△2.27
増減率 (%)	△4.8	△78.2	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	9,674	377	136	△130	△1.34

#### 2. 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 23,406	百万円 906	百万円 647	百万円 22	円 銭 0.17
今回修正予想 (B)	21,800	537	48	△548	△4.84
増減額 (B-A)	△1,606	△369	△599	△570	△5.01
増減率 (%)	△6.9	△40.7	△92.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 3 月期)	20,452	699	10	△790	△7.87

### 3. 第2四半期連結累計期間における差異発生 の主な理由

連結子会社である株式会社大黒屋（以下、「大黒屋」と言う。）においては、前期から回復傾向となっていた外国人観光客向け売上高がさらに好調であることから売上高は8,061百万円となり、前年比では改善（10.1%増）いたしました。計画値には届かず、計画比116百万円減となりました。また、粗利益率の高い店頭買取金額の上昇率が売上高の伸びに対して遅れたことから、売上総利益額は2,168百万円となりました。販売費及び一般管理費につきましては、川崎店の新規出店に伴う地代家賃の増加等の経費増加があったことから、1,814百万円となり、前年比より増加しましたが、計画比133百万円減となりました。以上の要因から営業利益は625百万円、計画比32百万円減となりました。

連結子会社である英国のSPEEDLOAN FINANCE LIMITED（以下、「SFLグループ」と言う。）においては、平成30年10月23日に、金利負担軽減のため、既存借入金の返済を実行いたしました。事業構成の再度見直しに伴うリストラクチャリングの為、SFLグループの売上高は1,679百万円となりました。

また、ラックスワイズ株式会社（株式会社ベータデジタルに社名変更の予定：以下「LW」と言う。）においては、チャットボットを始めとするCtoCプラットフォームの構築及びデータベースマネージメントのOEM提供等事業展開の最終段階に入っているものの、当初の予想より事業立ち上げが遅れたことにより、収益が発生していないため、売上高減となりました（予想値は216百万円）。

その結果、第2四半期連結累計期間の売上高は、497百万円の未達で、9,939百万円となりました。

連結営業利益は、大黒屋及びSFLグループの売上総利益率の低下があったものの、グループ全体での販売費及び一般管理費の圧縮を行ったことから、27百万円となりました。

連結経常利益は、当社の株式会社りそな銀行からの融資などの銀行手数料及びSFLグループの既存借入金の返済が遅れたことによる金利負担で、244百万円の未達で、△269百万円となりました。

その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、211百万円の未達で△466百万円となりました。

### 4. 通期連結業績予想の修正理由

平成31年3月期通期の業績につきましては、主要子会社である大黒屋における当年度の業績予想は、既存店売上高につきましては、昨年度のリファイナンス以降順調に売上を伸ばしていることから、増加する計画としましたが、新規出店は4店舗を想定していたところ、10月12日オープンの川崎店のみにとどまっております。また、当初新ECによる売上高を第3四半期初頭から見込んでおりましたが、12月以降となっていることから、全体としては、売上高を306百万円下方修正いたしました。また、当初計画に織り込んでいなかった、大黒屋のブランド認知度向上及び顧客獲得のための広告宣伝を、段階を踏んで行うことを予定しております。その結果、営業利益は、売上高の減少及び広告宣伝費の増加に見合う修正を行っております。

なお、大黒屋では本年度期末に向けて、テレビCM等を含む大々的広告キャンペーンを展開し更なる業績向上に努める予定です。

英国SFLグループの業績につきましては、上期の実績に基づき、売上高を376百万円下方修正し、現時点での状況を踏まえた業績に修正いたしました。

さらに、LWにおいては、新ECサイトがスタートできていないことから、売上高を955百万円下方修正しております。なお、LWは、当初より赤字を見込んでおりましたので、営業損益以降の影響額は軽微となっております。

以上